

Report

Energy Studies Division Seminar, "Nuclear Power for Tomorrow" 「エネルギー学」部会シンポジウム「原子力の明日を考える」開催報告

平成 25 年 11 月 18 日(月)に都内丸ノ内線茗荷谷駅近くの筑波大学東京キャンパス文京校舎 1 階 134 講義室において、「エネルギー学」部会シンポジウムが開催されました(主催:日本エネルギー学会「エネルギー学」部会, 共催:筑波大学大学院システム情報工学研究科リスク工学専攻, (一社)エネルギー・資源学会)。

「エネルギー学」部会は日本エネルギー学会の部会横断的な「エネルギー学」の確立を目指し, 他学会や関連研究機関との積極的な連携を図るとともに, 関連する多分野の研究者を結集して積極的な活動を行っています。今回は, 福島第一原子力発電事故を踏まえ, 原発批判が高まっている中, 地球温暖化問題の解決とエネルギー自給率の低下によるエネルギーセキュリティの確保はどのように図られるのか?日本のエネルギー政策において原子力発電の役割はどのように位置づけられるのか?安全性を重視した原子力技術とその人材育成の見通しは?など, エネルギー・原子力分野の専門家による講演と討論会でこれからの原子力のあり方を議論しました。

セミナーは第1部, 第2部の2部構成で, 第1部では4名の専門家による講演があり, 第2部ではその4名の方々によるパネル討論会が開かれました。学会誌への会告掲載が間に合わずにホームページでの告知のみとなってしまうためか, 参加者数は35名と残念ながらやや少なめでしたが, その分内容の濃い議論がしやすかったと思われます。当日のプログラムは以下の通りです。

開催挨拶 「エネルギー学」部会長 筑波大学 内山洋司

第1部「プレゼンテーション」

(司会)「エネルギー学」部会幹事 筑波大学 岡島敬一

(1) 諸外国における原子力政策の最新動向

(一財)日本エネルギー経済研究所 戦略研究ユニット
原子力グループ グループマネージャー 研究主幹 村上朋子氏

(2) 原子力の安全性問題について ～福島第一原子力発電所事故の教訓と安全対策への反映～

(一財)エネルギー総合工学研究所 原子力工学センター長 田中隆則氏

(3) 日本のエネルギー政策について

高知工科大学 客員教授 神田 淳氏

(4) 我が国の原子力技術と原子力教育について

東京大学大学院工学系研究科 教授 田中 知氏

第2部「パネル討論会」

(司会)「エネルギー学」部会長 内山洋司

テーマ「原子力の明日を考える」

閉会挨拶 「エネルギー学」部会長 内山洋司

内山洋司部会長の開催挨拶, 主旨説明(写真1)に続き, 第1部ではそれぞれの専門性を生かした詳細データに基づく講演がなされました。日本エネルギー経済研究所の村上朋子氏からは, 世界の原子力政策動向や福島事故後の主要国の動向として米国, ドイツ, フランスなどの状況



写真1 開催挨拶 内山洋司氏(「エネルギー学」部会長, 筑波大学 教授)



写真2 専門家による講演(1) 村上朋子氏(日本エネルギー経済研究所 研究主幹)



写真3 専門家による講演(2) 田中隆則氏(エネルギー総合工学研究所 原子力工学センター長)



写真5 専門家による講演(4) 田中 知氏(東京大学大学院教授)



写真4 専門家による講演(3) 神田 淳氏(高知工科大学 客員教授)



写真6 パネル討論会

に加え中国・インド、中東・東南アジア等、新興国を含めた最新トピックの紹介があり、原子力事業環境と国際展開の今後について述べられました(写真2)。エネルギー総合工学研究所の田中隆則氏は、原子力開発利用の歴史を紐解きながら福島第一原子力発電所事故の事象進展と教訓について述べられ、シビアアクシデントへの対応・対策、原子力規制委員会の誕生、新規制基準とそれに対する対応、課題などが紹介されました(写真3)。

続いて、高知工科大学の神田淳氏からは、日本のエネルギー政策についてと題し、燃料価格高騰や価格変動の増大状況、電気料金の推移などを示しながら、中期のエネルギー政策について提言が述べられました(写真4)。最後に東京大学大学院の田中知氏より、原子力発電に必要となる技術・人材についてと我が国の原子力技術についての現状と特徴、原子力発電の安全を支える産業構造などについて紹介があり、福島第一原子力発電所事故後の原子力教育、基礎・基盤研究および人材育成についての課題が述べられました(写真5)。各講演30分の予定でしたが、どの講演も興味深い内容で、質疑応答の時間が不足したくらいでした。

第2部では第1部の講演者4名がパネリストとなり、内

山部会長の司会で、「原子力の明日を考える」をテーマとしてパネル討論会が開かれました。主な討論のポイントは以下の通りです。

- ・原子力に対する世論の変化について
- ・発電所の再稼働問題について
- ・安全問題について
- ・原子力開発の必要性
- ・技術者確保と原子力教育

それぞれのパネラーからは率直なご意見、見解が聞かれ、充実したパネル討論会となりました(写真6)。聴講された方々からは、講演と討論会の両方で大変勉強になり深みがあるシンポジウムであった、等のご意見を頂き好評な会となりました。再稼働はどうなるのか、日本において原子力はどのように位置づけられるのか、など不透明な情勢の中で、今後の方向性を示す議論が深まったのではないかと思います。「エネルギー学」部会では、引き続きこのような場を設けるよう活動します。

末筆になりましたが、ご多忙にも関わらず、講演を快く引き受けて下さった先生方、ご参加された皆様、関係者の皆様に御礼申し上げます。

(岡島敬一 「エネルギー学」部会幹事、筑波大学)